

東京衛生管理者協議会

令和3年度第1回研修会・定期総会開催

東京衛生管理者協議会の「令和3年度第1回研修会」及び「定期総会」が、令和3年8月23日(月)に会員55名の参加により開催されました。

前回の研修会同様、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、(公社)東京労働基準協会連合会本部4階ホールに事務局関係者が集まり、参加者はオンラインで視聴参加する形式での開催となりました。

今回の研修会は、新型コロナウイルス感染症が社会全体に大きな影響を与え、労働環境が変化していく中、「企業の産業保健スタッフに必要なコミュニケーションスキルは何か、どのような点に留意しながら取り組んでいく必要があるのか」をテーマに取り上げ、実施いたしました。

研修会では、東京衛生管理者協議会会長 吉川智明様の挨拶の後、東京労働局労働基準部健康課、主任労働衛生専門官 寺門健一様から「新型コロナウイルス感染症に対する労働衛生行政の取り組みと直近の労働衛生行政の動向について」と題して、「(1)職場における新型コロナウイルス感染症に対する取り組みについて」、「(2)職場における熱中症対策について」、「(3)メンタルヘルス対策自主点検結果について」、それぞれご説明いただきました。

1つ目の新型コロナウイルス感染症に対する取り組みについては、東京労働局労働基準部健康課に「相談コーナー」が設置されており、事業者及び労働者からの相談等に対応していること等に加え、緊急事態宣言の延長に伴い、新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針の改正が行われ、従前の感染防止のための取り組みに追加された事項についてご説明をいただきました。

2つ目の熱中症対策については、「東京労働局管内の令和2年の職場における熱中症による死傷者数は、過去10年の中で2番目に多い77人であったこと」、「過去6年の死傷者数をみると建設業が最も多く、次いで警備業、道路貨物運送業で多く発生していること」などをご説明いただきました。

また「STOP! 熱中症クールワークキャンペーン」が本年も実施されており、「WBGT値(暑さ指数)の把握が重要である」こと、及び「WBGT値に応じた対策等の実施ポイント」をご説明いただきました。

3つ目のメンタルヘルス対策自主点検結果については、第13次東京労働局労働災害防止計画の小目標「ストレスチェック結果を集団分析し、その結果を活用した事業場の割合を60%以上とする」に関して、事業場に自主的な改善を促すために行われた令和2年度の自主点検の結果についてご説明いただきました。

その内容は、「集団分析結果を勘案して心理的負担軽減措置を講じている事業場の割合は72.3%」であり、具体的には、「定めた休日がきちんととれ、年次有給休暇やリフレッシュ休暇が計画的に、また必要に応じて取れるようにする」「必要な時に上司や同僚に相談したり支援を求めたりしやすいようコミュニケーションがとりやすい環境を整備する」などの措置が多く行われていることをご説明いただき、大変参考になりました。

(こちらの実施結果は東京労働局ホームページに掲載されていますのでご参照下さい)。



東京衛生管理者協議会
会長 吉川智明様



主任労働衛生専門官
寺門健一様

続いて、北里大学大学院教授 田中克俊先生より「衛生管理者に必要なコミュニケーションスキル～テレワーク環境など多様化する労働環境下での対応～」と題してご講演をいただきました。

コロナ禍において在宅勤務を取り入れる企業が増える中、メンタルヘルス対策は大きな課題となっております。心理的な支援の1つとして、「衛生管理者や管理職が、積極的に声掛けやコミュニケーションの場を設けることが大切である」こと、そして「そのために備えておくべきコミュニケーションスキル」についてご説明いただきました。

まず基本的な事項として、「ある出来事や状況に対する人間の気持ちや行動は、その時に頭で浮かんだ考え(ネガティブであることが多い)によって決められるものであること」についての説明がありました。

その一番初めに浮かんだ考えが「最も影響を与え、それにより考え、気分、行動が影響しあい、悪循環へとつながること」など、人の「自動思考」についてご説明いただきました。

この説明を自分の身に置き換えてみると、これからの日常における考え方、行動にとって、大変に参考になる情報が多々含まれているように思いました。

そして、そのような悪循環により不調を訴えている相手に対して、「悪循環をやめさせて、問題解決につながるためには、どのように相手の話を聞けばよいのか」、「相手の気持ちを考えどのように発言することが大切なのか」など、事例を挙げて詳細にご説明いただきました。

職場において衛生管理者として、また管理職としての立場で必要となるスキルであることはもちろんのこと、様々な場面に応用のできる内容で、非常に参考になる有意義な場となりました。

研修会終了後に開催された定期総会では、「令和2年度事業実施報告」、「令和2年度収支決算報告」、「令和3年度事業計画(案)」、「令和3年度収支予算(案)」について審議、承認され、約2時間半で研修会及び定期総会が終了となりました。

コロナ禍の中でのオンライン形式での開催であることにより、令和元年度まで行ってきたグループ討議ができず、各企業の衛生管理者の方々の意見交換の場を設けることが難しい状況が続いております。

しかしながら、オンライン形式による開催により、今まで参加が難しかった会員の視聴参加が増えるなどの傾向も現れてきております。

今後も、様々なテーマ、開催方法など会員の方々のニーズに応える研修会等を開催してまいりますので、ぜひご参加いただき、情報収集の場としてご活用いただけると幸いです。

問題解決のためのコミュニケーションスキル

- ① 支える表現で、関係を「ON」にする
「ON」の関係 = YES「そうなんです」
「OFF」の関係 = BUT「でも・・・」
- ② 「相手を押さない」と「相手の感情を追う」
「ON」関係を深める大事なポイント
- ③ ソクラテス式問答で問題解決へ
「行動」を変えるか「考え」を変えるかを自分で
考えてもらう



北里大学大学院教授 田中克俊先生
ご講演の冒頭内容